

5歳児発達相談は

相談の現状は。

答 発達状況などを保護者と共有し、課題があれば早期に支援を開始してスムーズな就学につながることを目的としている。保護者は

子どもの気になる姿を保育施設の職員と話し合うことで関わり方についての不安が軽減されている。

保育施設では、個別指導計画を作成し、子どもの実態に合った保育に取り組んでいる。また、必要に応じて、子ども発達支援センターやことばの相談室につなげている。

ふくやま環境美化センターは

問 供用開始により、燃やせるごみの処理はどう変わるのか。

答 現在3つの焼却施設とごみ固形燃料工場で処理しているが、

新施設ではこれらを1カ所に集約し、府中市と神石高原町のごみも合わせて処理する。3炉構成で実質1日当たり平均460トンの処理が可能となる。想定される1日の処理量は約400トンであるため、十分な処理能力を有している。

教育長による学校訪問は

問 教育長は日々、学校現場を訪問し、先生や児童生徒と対話しているようだが、感想は。

答 昨年度の訪問は300回を超え、研修等を含めると8年間で

2千回を超える。各学校では校長を中心に教職員一人一人が従来の価値観を問い直し、子ども主体の学びに向けてチャレンジし続けている。最近では面白がって学び、考え続ける子どもの姿が見られる教室が増え、日々の授業での子どもや教職員の姿に感動の連続である。

福山市立大学は

問 入学希望の学生は将来に夢を託し本大学を選ぶものと思うが、学生にPRすることは。

答 地域に根差した、市民から

信頼される大学として「キャンパスは街、学ぶのは未来」を掲げ、体験型、参加型の授業をしてきた。またAIを用いた水道施設の効率的な運転管理に関する共同研究や高等学校での探究活動の指導助言等、成果を地域にも還元している。

誠友会



こばたけ 小島

たかひろ 崇弘



地域、行政の防災力の強化は

問 能登半島地震のような大規模災害に対し、今後どのような考えで防災対策に取り組むか。

答 大規模災害への備えとして自助、共助、公助の取り組みを一層強化する必要がある。能登半島

地震の発生を受けて実施した市公式LINEでの緊急アンケートの結果を踏まえ、ハザードマップによる災害リスクの確認などの自助の取り組みを強化する。また、共助としては対象となる全42学区・地区で津波避難計画を策定するとともに、避難行動要支援者のための個別避難計画の策定率を向上させる。公助については、今年度実施する大規模災害を想定した総合防災訓練において、昨年度新たに策定した受援計画の素案に基づき関係機関同士の連携を確認するなど受援体制の強化に取り組む。

有害鳥獣対策の推進は

問 今年度、市街地に出没するイノシシへの対策に取り組むとのことだが、詳細と目的は。

答 専門家の意見を踏まえ、市

街地近郊の森林において痕跡やカメラによる出没頻度調査を行い、効果的な場所に箱わなを設置する。箱わなには成獣を感知するセンサーを取り付け、人慣れ、車慣れした成獣をまずは捕獲することで市街地出没と生息数の減少をめざす。

高齢者の健康・生きがいづくりの充実

問 バス等の優待交通助成の拡充や新たに組み込む補聴器購入助成により期待される効果は。

答 おでかけ乗車券の拡充によ

り外出機会を増やす。また、補聴器購入助成制度の創設により聴力低下へ早期に対応することで、高齢者が人や地域とつながり、生きがいを持って暮らせるように支え生活の質の向上などにもつなげる。



補聴器で暮らしを豊かに